
第 4 回行田市産業交流拠点 基本計画検討委員会 コンセプト～整備図案

目次

| | |
|-----------------------------|---|
| 1. 検討経緯の整理..... | 1 |
| (1) これまでの経緯..... | 1 |
| (2) 行田らしい特性・資源・ニーズの抽出..... | 1 |
| (3) 基本構想のコンセプト..... | 2 |
| (4) 基本計画の役割..... | 2 |
| 2. 整備コンセプト..... | 3 |
| (1) 産業交流拠点全体の整備コンセプト..... | 3 |
| (2) ゾーン別テーマの設定..... | 4 |
| (3) 産業交流ゾーンのマーケティングテーマ..... | 5 |
| (4) エリアの考え方と施設機能..... | 6 |
| 3. 整備イメージ..... | 8 |
| (1) 配置の考え方..... | 8 |
| (2) 配置計画図..... | 8 |
| (3) 整備計画図（案）..... | 9 |

平成 28 年 9 月

1. 検討経緯の整理

(1) これまでの経緯

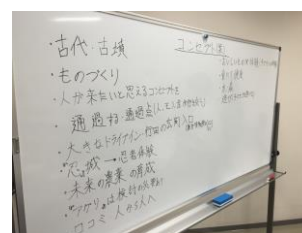
コンセプトの検討にあたっては、「市民意向調査」や「事業者ヒアリング」、「産業交流拠点基本計画検討委員会」にて、市内の方の意見を伺ってきました。

市民意向調査においては、他の調査結果とのSWOT分析の結果、「健康」というキーワードが導き出されました。

また、事業者ヒアリングにおいては、事業者の立場から行田市に必要なものや施設イメージ、産業交流拠点への協力可能性などについて意見を伺いました。そこでは、テイクアウト売場として、産業交流拠点への出店や麺類などの商品卸、農業体験施設の指導員などの協力可能性があることが明らかになりました。

続いて、検討委員会においては、コンセプトに関する意見を委員の方に伺いました。意見としては、「緑・水」や「体験・加工」、「連携・交流」など様々な意見が挙げられ、特に「歴史・和」や「食」に関しては、多くの意見が挙げられました。

■検討委員会の様子

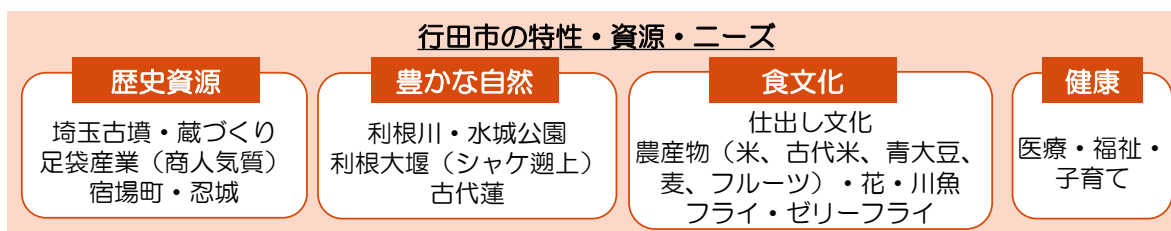


(2) 行田らしい特性・資源・ニーズの抽出

これまでの検討結果を踏まえ、行田らしい特性・資源・ニーズとして

- ① 埼玉古墳群、足袋蔵、忍城址といった「歴史資源」
- ② 古代蓮、水城公園、利根川といった「豊かな自然」
- ③ 仕出し文化、農産物（青大豆、米、麦）、ゼリーフライといった「食文化」
- ④ 医療・福祉・子育てのニーズといった「健康」

の4つを抽出しました。



(3) 基本構想のコンセプト

「行田市産業交流拠点整備基本構想」において、調査研究によるSWOT分析の結果から、コンセプトとして、『健康』をテーマとした地域循環型の産業・生活交流拠点から広域的な行田まるごと情報発信拠点へ』としています。

さらに、産業交流拠点は『産業交流拠点機能』、『生活交流拠点機能』、『情報発信拠点機能』の3つの機能を内包するものとして、ゾーンごとの方針を設定しています。

■基本構想の位置づけと本計画の役割

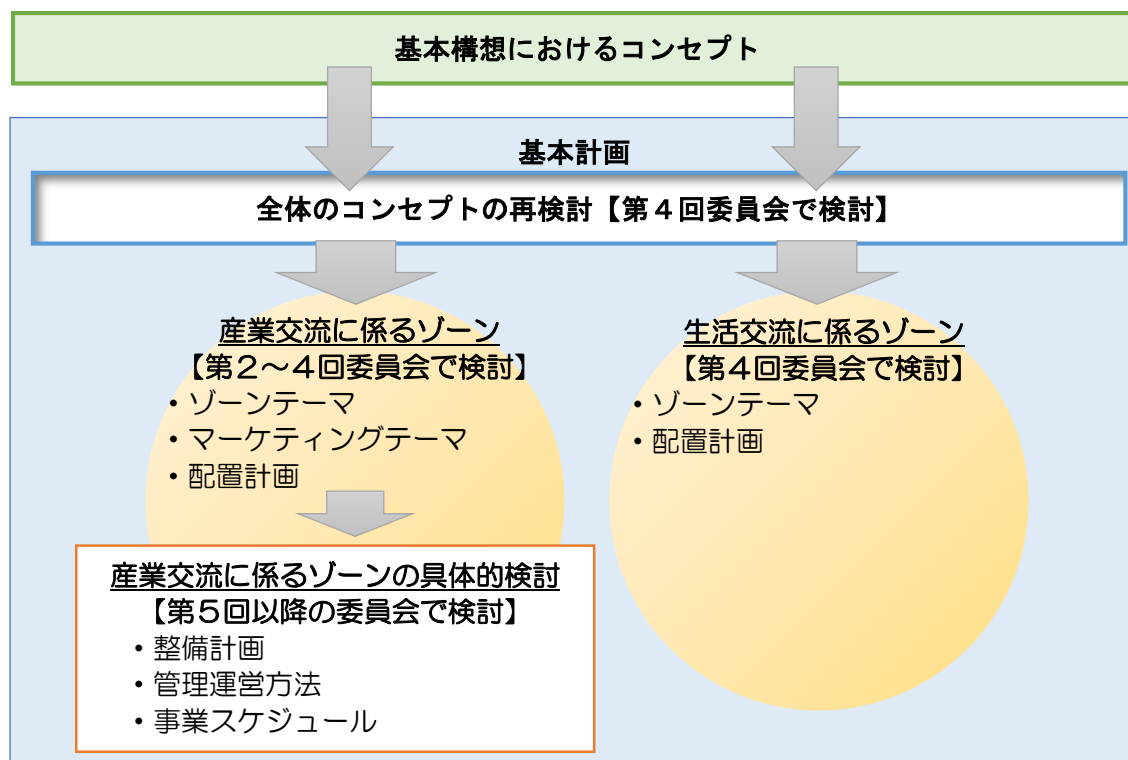
“健康”をテーマとした地域循環型の産業・生活交流拠点から 広域的な行田まるごと情報発信拠点へ

“健康”をテーマとし、3つの機能を内包した産業交流拠点を形成します！

- ①地域のひと、もの、かねが循環する産業交流拠点機能
- ②地域の人々の生活・福祉を支援する生活交流拠点機能
- ③広域的な行田まるごと情報発信拠点機能

(4) 基本計画の役割

基本計画においては、基本構想におけるコンセプトを踏まえながら、産業交流拠点全体の整備コンセプトおよびゾーン別テーマを設定するとともに、マーケティング分析・整備計画を検討します。



2. 整備コンセプト

(1) 産業交流拠点全体の整備コンセプト

これまでの検討経緯と基本構想におけるコンセプトを踏まえ、産業交流拠点全体の整備コンセプトを

『行田のいいとこまるごと発信拠点～行田らしい文化・産業・生活の再発見～』
とします。

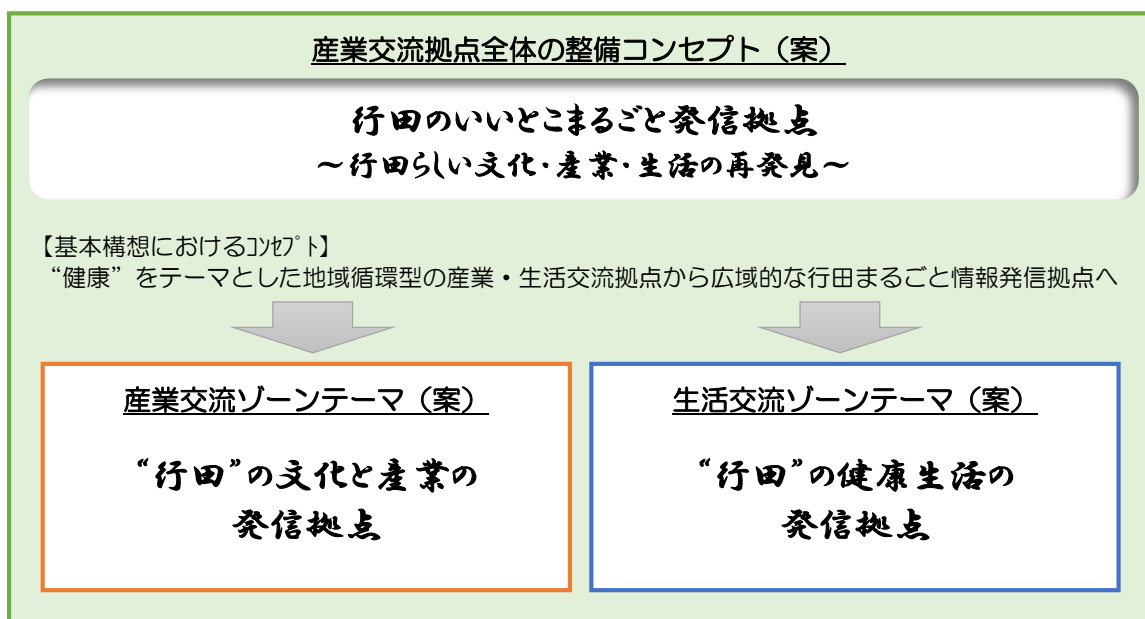
行田らしい文化とは、古代の「埼玉古墳群」に始まり、戦国時代の「忍城」を中心とした城下町の形成、近代における「足袋産業」の発展など、市内各所に残る歴史を、市民のかけがえのない誇りとして継承していくものです。

行田らしい産業とは、米や麦などの農業を中心に、農産物の生産や加工、食品づくりなど、個々の探求心や創意工夫から生み出される行田市特有の“ものづくり”の文化・技術と多様な事業者の連携によって新たな6次産業として発展していくものです。

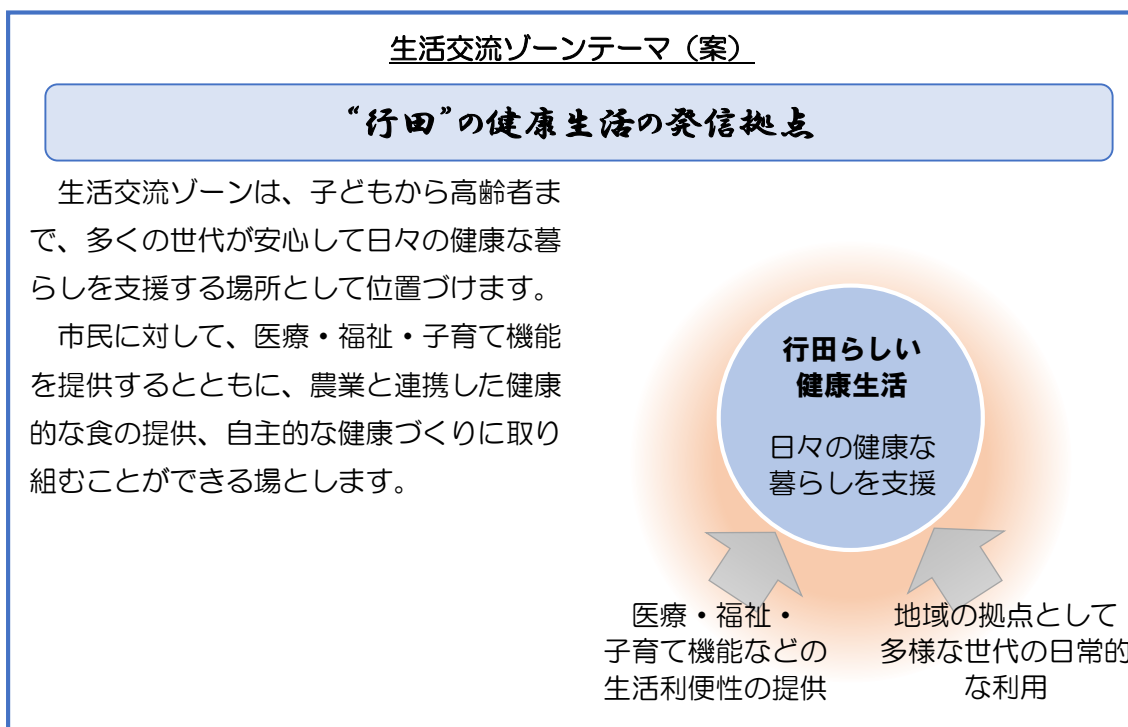
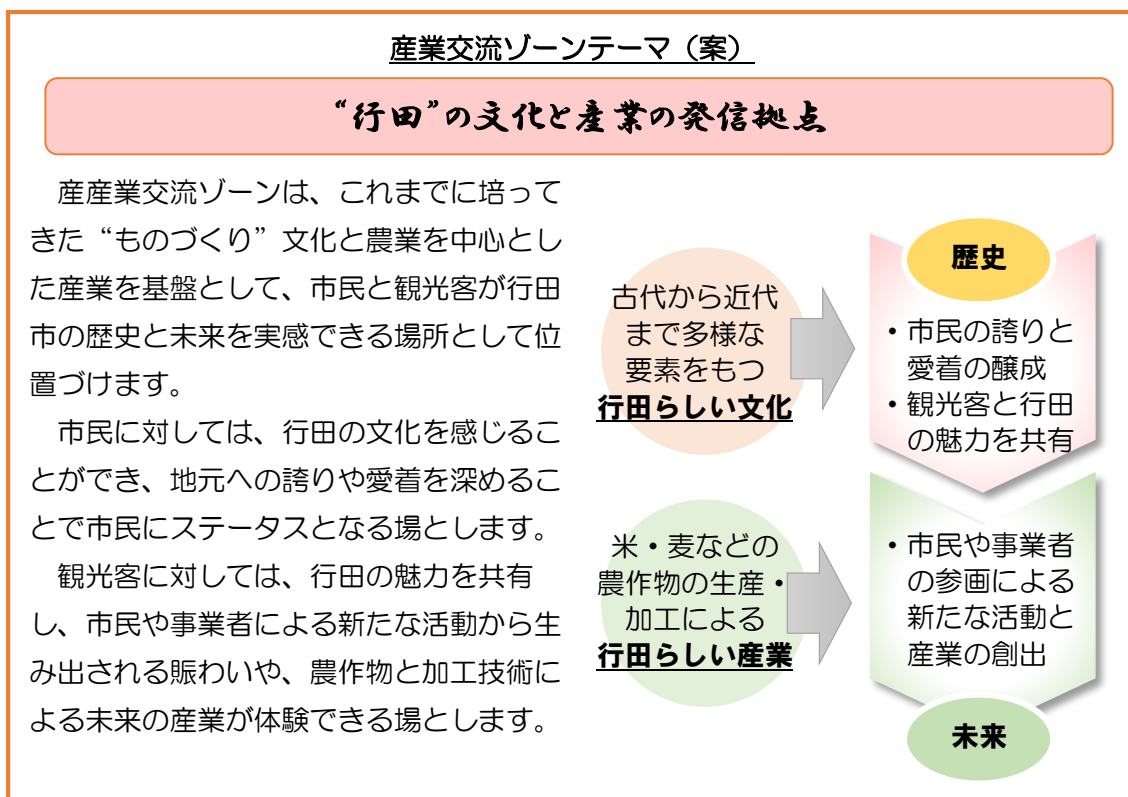
行田らしい生活とは、高齢化が進む中で、産業交流拠点を多くの世代が交流し、多様な機能が集積する小さな拠点として整備することにより、市民が健康で安心した生活を送ることを目指すものです。

産業交流拠点に訪れることで、利用者が行田らしい文化・産業・生活を体験することで“行田らしさ”を再発見することができ、それらの要素がコンパクトに集積し、まるごと発信できる拠点として、また、未来の行田市の発展につながる拠点として整備を進めます。

さらに、産業交流拠点全体を「産業交流ゾーン」と「生活交流ゾーン」の2つのゾーンに分け、それぞれのテーマを設定し、市民と観光客が交流できる拠点とします。



(2) ゾーン別テーマの設定



(3) 産業交流ゾーンのマーケティングテーマ

「行田の文化と産業の発信拠点」としてのゾーンテーマを実現するためには、行田市の魅力的な歴史を継承し、新たな活動・産業により未来の発展につなげる必要があります。

そのためには、市民にとっては、地元への誇り、愛着を深めてもらう場所として、観光客にとっては「行田」を発見してもらう場所として、整備を進めます。

以上を踏まえ、マーケティングテーマを次のように設定します。

■ マーケティングテーマ（案）

マーケティングテーマ（案）

行田再発見！

古代、戦国から現代、未来へと続く
“人”と“技”の世界

行田市は「埼玉古墳群」に始まり、戦国時代の関東七名城に挙げられる「忍城」など、日本の歴史を語る上で欠かせない史跡を有し、江戸時代から近年にかけては、「足袋」の一大産地として栄えてきました。現在もその多くの史跡や街並み、大切な自然を残しながら、新しい産業基盤の整備を進めています。

また、行田市の産業交流拠点においては、歴史・文化を発信すると同時に、市民一人一人の積極的な活動を促し、地域振興の場である産業交流拠点だからこそできる事業へと発展させていくことが重要と考えます。

農産物の生産や加工、食品づくりなど、個々の探求心は、古くから培われてきた“行田気質”によるものです。多くの人々の“行田気質”を集約・研究していくことで、それぞれの人が日本を代表するオンリーワンとなり、市内産業・経済の活性化、ひいては“行田”そのもののアピールへとつなげてまいります。

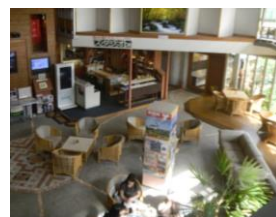
(4) エリアの考え方と施設機能

全体の整備コンセプトである「行田のいいとこまるごと発信拠点～行田らしい文化・産業・生活の再発見～」及び産業交流ゾーンと生活交流ゾーンのゾーンテーマを受け、本施設を配置し、それぞれ特色のある空間を目指します。

ウェルカムエリア

施設の玄関口、また、休憩場所として利用できる場所として、「ウェルカムエリア」を位置付けます。

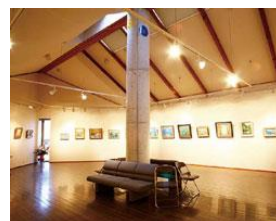
機能としては、観光コンシェルジュ（情報コーナー）、ロビー、コンビニ、トイレなどを配置します。トイレ及び情報コーナー、コンビニは深夜利用を見越した配置とします。



カルチャー&コミュニティエリア

行田市のものづくりや歴史などを体験してもらう場所として、「カルチャー&コミュニティエリア」を位置付けます。

機能としては、ギャラリー、多目的スペース、加工キッチンなどを配置します。加工キッチンはアグリパークの生産物も加工することができる場所とします。



賑わいエリア

市民と観光客、高齢者と子どもなど、様々な人々が集い、賑わいが生まれる場所として、賑わいエリアを位置付けます。また、イベントスペースも一体となって賑わいを生み出す場とします。

機能としては、レストランやフードコート、直売所、物販、テイクアウトコーナーなどを配置します。



イベントスペース・広場

賑わいエリアと一体となって、文化の発信や朝市など、多様な催しが開催できる場所として、イベントスペースを位置付けます。



アグリパーク

農業振興の場として、アグリパークを位置付けます。



生活交流エリア

地域住民の日々の健康な暮らしを支えるための医療施設、福祉施設や、子育て世代を支援するための場として、生活交流エリアを位置付けます。

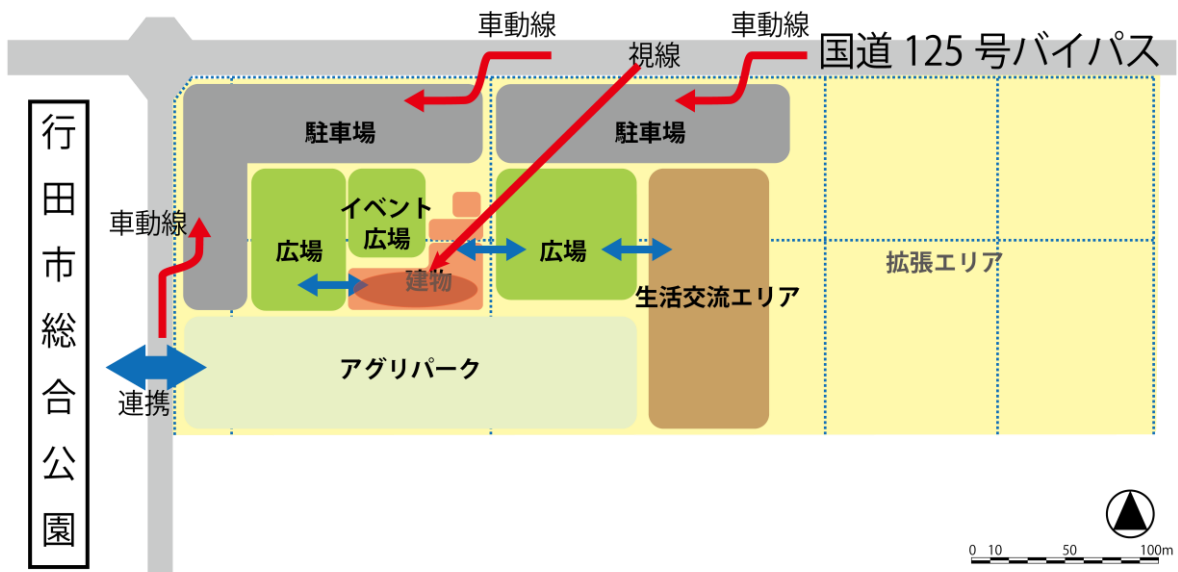
| ■ 検討委員会における施設機能の意見一覧 | |
|----------------------|--|
| ウェルカムエリア | 観光コンシェルジュデスク、情報コーナー、ロビー、アトリウム、コンビニエンスストア、トイレ、フリーWi-fi、バスターミナル |
| カルチャー&コミュニティエリア | 多目的スペース、食品加工キッチン、地場産業体験コーナー、ギャラリー、フラワーアレンジメント教室、料理教室、フライ・ゼリーフライ講座教室、昔遊び体験施設、アート工房、ダンススタジオ、室内遊具場、文化・歴史紹介ブース |
| 賑わいエリア | レストラン、フードコート、直売所、物販、テイクアウトコーナー、スイーツ販売、菓子製造販売、地元加工品販売、ハンドメイド販売、足袋販売、屋台村、パン工房、ピザ工房、姉妹都市提携店、駄菓子屋、鮮魚市場、そば工房、うどん工房、喫茶店、ラーメン屋、たまごショップ、青大豆ショップ、豆腐工房、いちごショップ、パスタショップ |
| イベントスペース・広場 | RVパーク、BBQ場、ダンス・音楽・甲冑隊ショーステージ、オートキャンプサイト、アスレチック広場、芝生広場、水遊び場、ゴーカート場、面白レンタ自転車、ボルダリング、ふれあい動物園、フットサルコート、スケボーリンク、ふわふわドーム、ドッグラン、ゴルフ場、釣り堀 |
| アグリパーク | 日帰り体験農園、観光農園、南国フルーツ園、市民農園（クラインガルデン）、牧場 |
| 生活交流エリア | 医療施設、福祉施設、子育て支援施設、消防署、郵便局、市役所窓口出張所 |

3. 整備イメージ

(1) 配置の考え方

| | |
|-------------------|--|
| <p>建物</p> | <p>○L字型に建物を配置することにより、イベント広場との一体性を確保します。</p> <p>○国道125号バイパスから建物正面が見える、視認性の高い配置とします。</p> |
| <p>広場</p> | <p>○大小様々なイベントに対応可能な広場とします。</p> <p>○広場を利用する人々の様子が国道125号バイパスから分かりやすい、視認性の高い配置とします。</p> <p>○建物と建物の間に広場を設け、一体的な賑わいを創出しやすい配置とします。</p> |
| <p>賑わい</p> | <p>○アグリパーク、広場、建物を隣接配置し、一体的な賑わいを創出しやすい配置とします。</p> <p>○総合公園と一体的な賑わいを創出しやすい配置とします。</p> |
| <p>駐車場</p> | <p>○国道125号バイパスからのアクセスを考慮し、駐車場長辺を国道125号バイパス側に配置します。</p> <p>○総合公園と一体的に利用しやすいよう、駐車場を配置します。</p> <p>○生活交流エリアの駐車場は分離させ、各建物へアクセスしやすい配置とします。</p> |

(2) 配置計画図



(3) 整備計画図 (案)

【懸念事項】

『フードコート』

ショッピングセンターのフードコート型で中央を客席とするか、ラーメン博物館のような昔の街並み（小路）型の内装とするか、または横丁小路型の場合、飲食だけでなく、物販の個店もこちらに集約することも考えられます（例：「行田横丁」）。

想定されるショップは「いちごショップ」「フルーツショップ」「たまご屋」「青大豆ショップ」「豆腐工房」「行田フライ」「足袋屋」「花屋」等で、その場合はさらに広くすることも考えられます。（300～400㎡くらい）

『飲食店』

地産地消の農家レストラン（定食）、行田麺屋、フルーツデザートカフェ等が考えられます。2店舗とすることも可能です。

『テイクアウト』

ドリンクやソフトクリームなどのデザート系だけにする、もしくはフライなど惣菜系も取り入れるかで面積は変わります。

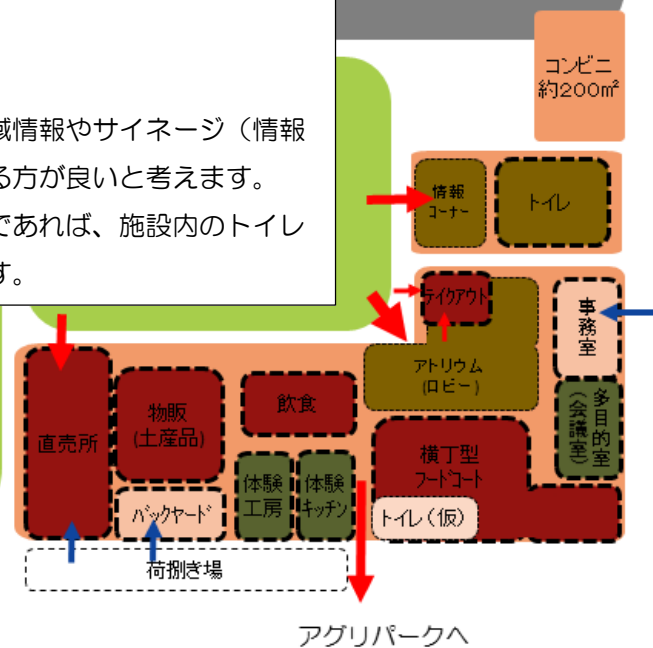
『体験工房』

料理体験以外に、足袋など「ものづくり」の体験が多数考えられれば、「体験キッチン」とは別に「体験工房」を設けます。

『トイレ』

情報コーナーとトイレは24時間対応で別棟とし、地域情報やサイネージ（情報ディスプレイ）などは人が集まるアトリウム側に設置する方が良いと考えます。

また、トイレは、フードコートや飲食ゾーンにも必要であれば、施設内のトイレを大型に、屋外トイレを小さめにすることも考えられます。



| 想定面積 | |
|-----------|-------------|
| 直売所 | 200～250㎡ |
| 物販 | 150～200㎡ |
| 飲食 | 100㎡ |
| フードコート | 200～250㎡ |
| テイクアウト | 30～50㎡ |
| アトリウム | 200㎡ |
| トイレ | 150㎡ |
| 体験キッチン | 100㎡ |
| 体験工房 | 100㎡ |
| 事務所 | 100㎡ |
| 多目的 (会議室) | 50㎡ |
| バックヤード | 100㎡ |
| 計 | 約1480～1650㎡ |

← 利用者動線
← 管理者動線